



大部っ子

大部小だより

令和4年11月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、ともに生きる児童の育成－

文責：学校長



令和4年度全国学力・学習状況調査結果より

吉岡 優



4月19日（火）に実施された[全国学力・学習状況調査](#)における調査結果の概要と今後の本校の対応について、お知らせします。

（1）教科（国語・算数・理科）の結果分析（○概ねよい、△やや課題がある）

国語	問題番号	項目
○	3イ	【短答】「はんせい」を漢字に
○	3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く
○	1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択
△	1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、どのように話すかを書く
△	2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する
算数	問題番号	項目
○	4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す
○	1(2)	14と21の最小公倍数を求める
○	3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く
△	2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す
△	2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く
理科	問題番号	項目
○	3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く
○	4(4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く
○	2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く
△	1(5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ
△	2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く

国語・算数・理科すべての教科で概ね良好でした。全教科ともに知識理解を問う問題は正答率が高く、基礎基本が定着していることがわかります。学校での学習、家庭での学習などにまじめに取り組んでいることがうかがえます。

(2) 各教科の課題

教科	育成すべき力	課題の特徴
国語	①書く力	複数の条件に合わせて作文を書くこと
	②(長文)読解力	筆者の主張、要約、接続語の意味するところなど大きく文意をとらえること
算数	①「概数」の概念	問題文と図(表)とを結び付けて必要な情報を取り出し、解いていくこと
	②「割合」の理解	伴って変わる二つの数量が比例の関係を用いて、未知の数量の求め方を記述すること
理科	①資料読み取り力	気づいたことをもとに、問題を見つけ、解決していくこと
	②探究力	試してみたいことをもとに、次の問題(発展的課題)を見つけること

(3) 教科の今後の取り組み

国語では「書く力」の育成において、PISA 型読解力向上の観点から、文字からの読み取りとともに、図・表・グラフ・その他資料等からの読みとりの能力をも強化しつつ、お話づくり、日記等の作文活動、さらにはプレゼン能力の育成に取り組めます。また、「(長文)読解の力」の育成では、特に説明的文章について、筆者の述べたいことや段落の趣旨に着目し、その主張に迫りながら読みを深めます。また、修飾語等の文法理解を深め、的確で豊かな表現を学びます。

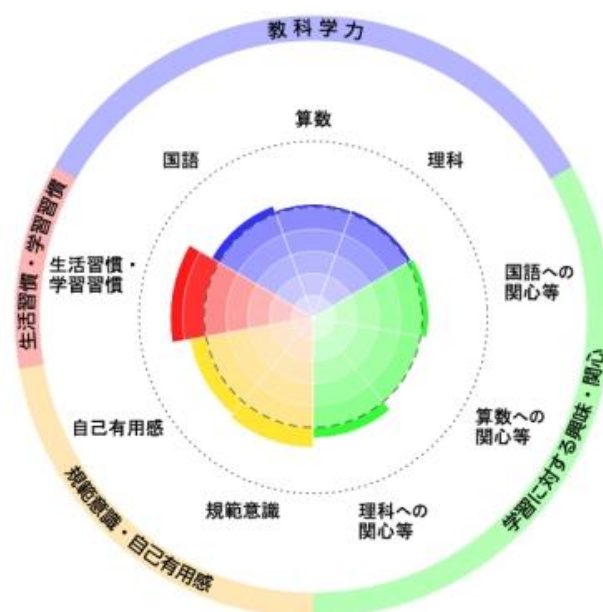


算数では引き続き、「おの検定」等の取組で基礎的な知識・技能の習得を図ります。また、数学的思考の基礎となる数学的概念は、その獲得に至る過程において、数量の関係性を理解したり、必要な情報を抽出したりする力の育成を主眼に置いて学習を進めます。図形の分野では思考を促すためにも ICT 機器を利用するなどして イメージ・ひらめき・気づきを大切に授業を展開していきます。

理科では、自然や科学に興味を持たせつつ、提示された情報を複数の視点で分析・解釈から、自分の考えをもつことができたり、観察などで得た結果を他者の気づきの視点で新たな考え方もつことができたりするかどうかなどをめざし、熟考し合う学びを展開していきます。

学校では現在の学習指導要領でも示されている「主体的、対話的で、深い学び」を推進しつつ、ICT 機器(一人1台のデジタル端末)も効果的に活用しながら、授業改善に取り組んでいきます。右図は本校児童質問紙回答のチャート(全国比)です。全項目で良好ですが、特に生活・学習習慣の優良さが確認できます。

[児童生徒]
児童質問紙(全国基準)



(4) 学習や生活状況に関する分析

これは、児童一人ひとりの学習、規範意識、社会に対する興味・関心等を質問紙による調査によって調査したものです。本校児童の特徴的な事項を抜粋して報告します。

【良好な項目】「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」の合計値が95%以上

- (13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- (36) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- (52) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- (54) 算数の勉強は大切だと思いますか

【気になる項目】

- (5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか
＜1時間以上の割合＞ 63.2%
- (6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）
＜1時間以上の割合＞ 43.9%
- (22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
＜1時間未満の割合＞ 29.8%
- (23) 新聞を読んでいますか
＜月1～3回読む+読んでいない＞の合計の割合 82.5%
- (49) 国語の勉強は好きですか
＜どちらかといえばあてはまらない・あてはまらない＞の合計の割合 37.4%

① 良好と思われる項目

子どもたちは自尊感情をはじめ、「(13) いじめは絶対に許さない」などの思いやりの心は順調に育っています。また、「(15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問にほとんどの児童が肯定的に回答しています。とてもうれしいことです。また、学校の学習（各教科・ICT活用）は「大切だ、将来役に立つものだ」との認識で毎日の学習の取り組んでいる様子もわかります。その他には「(18) 友達と協力すること(93%)」、「(29) 地域行事への参加(85.9%)」、「(48) 道徳授業への参加意欲(91.3%)」など良好な項目も多くありました。

② 課題と思われる項目

平日のスマホ利用時間が気になります。ゲーム1時間以上が6割、動画視聴1時間以上が4割。一方、平日の平均家庭学習時間は約1時間で、ゲームと動画が重なる児童もいることが推察されることからスマホ利用時間の方が多いい児童が散見されます。「家庭学習は学校で学んだことを定着させたり、次の日の予習など準備をしたりと学びの定着・学力の向上には欠かせない重要な活動である」との認識を共有したいと思います。もう一つ気になる項目が「読書時間」です。平日の読書時間が<10分未満+まったく

しない>割合が 31.5%です。さらに、「新聞をまったく読まない、あるいはほとんど読まない>割合は 66.7%です。3人に2人は新聞を読んでいません。すなわち、活字にふれる機会が極めて希薄ということです。過日、大部小だより（デジタル版：【第8号】そうだ！本を読もう！2022.7.19.Tue.）で<[年間100冊以上本を読むという芦田愛菜さんの本「まなの本棚」](#)>を紹介しました。読書・新聞は新しいことを疑似体験できたり、新しいことを知ったり、気づいたりできる「魔法のツール」といっても過言ではありません。家庭全体で「テレビを消し、スマホを置いて、家族で本・新聞を読む」そんな習慣を創ってみませんか。

「スマホ時間が長くてもそれ以上に勉強したらいいのでは？」と勘違いしていませんか。実は東北大川島隆太教授は「[長時間勉強してもゲームを長時間すると学習効果は打ち消される](#)」という事実を研究から明らかにされています。さらには、「[読書習慣は脳を発達させる](#)」と発言されていることから、「おうち時間はスマホ（テレビ）時間を減らし、学習・読書時間をふやすことこそが学力向上への道」と言えそうです。

デジタル機器の利用には各種問題はありますが、一方で学習の上では強力なツールでもあります。学習に利活用する分には使用は、奨めるところです。あくまでも、**ゲームや（娯楽の）動画視聴のスマホの長時間利用が悪影響を与える**ということは申し添えておきます。

（5）全国学力・学習状況調査によって明らかになった主な事項（文科省HPより）さて、文科省から「[全国学力・学習状況調査によって明らかになった主な事項](#)」と題して調査分析がなされています。そこからわかることを抜粋し、紹介します。

1. すべての教科で「書く習慣・活動」重視の学習は正答率を高め、無解答率を下げる。
2. 国語では相手に応じた対話の学びが重要である。
3. 算数では「実生活における事象」との関連を図った学びが重要である。
4. 学習に対する関心・意欲・態度、読書・学習時間、基本的な生活習慣、自尊感情・規範意識などの項目で、肯定的な回答又はその時間が長いと回答した小中学生ほど、学力との相関関係が高いことが確認された。
5. 家庭での生活・学習習慣の学力との関係等について、その影響の大きさを分析し「家で学校の宿題をしている」「朝食を毎日食べている」「学校に持っていくものを前日か、その日の朝に確かめている」などの生活・学習習慣に関する項目の影響の大きさを明らかにした。

（6）終わりに
今回の調査の結果から「さらに伸ばすべき点」、「改善が必要な点」を明確になりましたので、今後とも家庭と学校がしっかりタッグを組みながら、子どもの成長を支えていければ幸いです。重ねて言いますが、まずは「スマホを置いて、テレビを消す」から始めてみませんか？